

CITATION: Middleton P, Crowther CA. Reminder systems for women with previous gestational diabetes mellitus to increase uptake of testing for type 2 diabetes or impaired glucose tolerance. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Metabolic and Endocrine Disorders Group, 2014 Issue 3; New Art. No.: CD009578 DOI: 10.1002/14651858.CD009578.pub2.

CRG名: Cochrane Metabolic and Endocrine Disorders Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 01 June 13

Clib issue No.; N/U: 2014 Issue 3; New

アブストラクト

背景: 産褥初期は、妊娠糖尿病(GDM)の既往歴を持つ女性において糖尿病リスクを同定する重要な時期である。経口的ブドウ糖負荷試験や他の検査は、将来の2型糖尿病リスクを低減するための、生活習慣の管理やモニタリングの指針として有用となり得る。

目的: 情報想起システムによって、GDMの既往歴を持つ女性が、2型糖尿病または耐糖能障害の検査を受ける回数が増加するかどうかを検討すること。

検索戦略: MEDLINEおよびEMBASE(最終検索日2013年6月1日)とコクラン・ライブラリ(最終検索月2013年4月)を検索した。

選択基準: 研究対象の妊娠でGDMを発現し、出産後に2型糖尿病の検査を実施する目的で何らかの手段により通知が送られた(すなわちコントロール)女性を対象としたランダム化試験についてレビューした。

データ収集と分析: レビューア2名が個別に、関連性について標題と抄録を選別した。1名のレビューアがデータを抽出し、「バイアスリスク」の評価を行い、GRADE(Grading of Recommendations Assessment, Development and Evaluation)基準に従って研究の総合的質を評価し、もう1名のレビューアがこれらの手順をダブルチェックした。選択基準を満たした研究が1件しかなかったため、メタアナリシスは実施できなかった。

主な結果: ドメインの大半でバイアスリスクが不明な試験1件のみが本研究の対象となったため、研究の総合的質は低いと評価された。女性256例を対象としたこの要因試験では、郵送による想起サービス3種(計213例)を通常のケア(郵送による想起サービスなし、43例)と比較し、想定される血糖検査4種の実施が報告された。検討されたサービスは、検査通知を女性と主治医の両方に郵送、女性のみで郵送、医師のみに郵送の3種で、いずれも女性が出産してから約3ヵ月後に実施された。

以下3種の想起介入はいずれも通常のケア(想起サービスなし)に比べて経口的耐糖能試験の実施回数を増加させる、という質の低いエビデンスが得られた: 検査通知を女性と医師の両方に郵送(検査実施率60%対14%): リスク比(RR) 4.23[95%信頼区間(CI) 1.85~9.71]、参加者116例; 女性のみで郵送(55%対14%): RR 3.87(95%CI 1.68~8.93)、111例; 医師のみに郵送(52%対14%): RR 3.61(95%CI 1.50~8.71)、66例。これは、検査実施率が検査通知非郵送群の14%から通知郵送群3群の57%へと増加したことを意味した。また、空腹時血糖検査の実施率も検査通知郵送群の方が通常ケア群に比べて増加していた: 検査通知を女性と医師に郵送した場合と非郵送時の比較(検査実施率63%対40%): RR 1.57(95%CI 1.01~2.44); 女性のみで郵送(71%対40%): RR 1.78(95%CI 1.16~2.73); 医師のみに郵送(68%対40%): RR 1.69(95%CI 1.06~2.72)。ランダムな血糖値検査と糖化ヘモグロビンA1c検査の実施率は低く、これらの検査に関して検査通知郵送群と非郵送群の間に統計学的に有意な差はなかった。どの検査の実施率も各検査通知郵送群の

方が、非郵送群に比べて高かった：各郵送群のRRはそれを示す（95% CIは、Japan Council for Quality Health Care 1.18 ~2.52）、1.55(95%CI 1.01~2.38)。

試験では、本レビューの他の主要アウトカム(2型糖尿病と診断されたか、耐糖能障害または空腹時血糖値異常を示す女性の割合、若しくは健康関連QOL)が報告されなかった。糖尿病関連罹病率、生活習慣の変化、インスリンの必要性、GDM再発、女性および/または医療従事者の介入に対する考え方といった本レビューの副次アウトカムも報告されなかった。介入による有害事象は報告されなかった。

サブグループ相互作用試験では、両者への検査通知郵送(女性と主治医)の方が、女性のみまたは主治医のみへの郵送より有効であるとは示唆されなかった。また、検査通知郵送群と非郵送群の女性間の検査実施率が、実施された血糖検査の種類によって異なるかどうかは不明であった。

レビューアの結論:本レビューの選択基準を満たした唯一の試験で得られた結果は、GDM既往歴のある女性における2型糖尿病検査の実施率が検査通知郵送後に著しく増加するという質の低いエビデンスを示した。電子メールや電話による想起を実施した場合に検査実施率が増加するかどうかを明らかにするため、情報想起システムの他の形態の効果も評価する必要がある。また、一部の女性は出産後にスクリーニング検査を受ける機会を逸する理由をより理解する必要がある。出産後に実施する検査を増やす最終的な目的は2型糖尿病の続発を予防することにあるため、検査実施率の増加によって、女性による生活習慣の改善などの予防戦略の利用も増加するかどうか明らかにすることが重要である。

平易な要約(Plain language summary)

2型糖尿病または耐糖能障害の検査実施を増加させるための妊娠糖尿病の既往歴を持つ女性向け情報想起システム

レビュー上の疑問 妊娠糖尿病(GDM)の既往歴を持つ女性において、2型糖尿病または耐糖能障害の検査実施を増加させるための情報想起システムの効果を検討します。

背景

妊娠中に高い血糖値がみられる妊婦もいます(GDMと呼ばれる)。このような高血糖は、通常、出産直後に正常化しますが、GDMの既往歴を持つ女性は将来2型糖尿病を発症するリスクが増大します。したがって、そのような女性は、出産後1ヵ月以内から、正常より高い血糖値を定期的に検査することが重要となります(2型糖尿病または2型糖尿病に時々先行する前糖尿病状態の「耐糖能障害」を発見するため)。ところが、様々な理由で、GDMを発現した後に血糖検査を受けない女性は多くいます。

研究特性 GDMを発現した女性256例を対象として、213例またはその主治医宛に産後3ヵ月後に郵送した検査の通知(reminder letter)が、この通知を郵送しなかった43例に比べて、血糖検査を受ける女性の増加に有用かどうかを検討した単独研究。

主な結果

この研究では、検査の通知を郵送しなかった場合に比べて、通知を郵送した方が、GDMを発現した女性が出産から3ヵ月後に血糖検査を受ける可能性が約2~4倍(該当する血糖検査による)増大することが示されました。女性のみ、主治医のみ、もしくはその両方に通知を郵送しても差がないと思われました。

試験では、女性のQOLや、産後に2型糖尿病または耐糖能障害と診断された女性の数は評価されていませんでした。

電子メールや電話などの他の種類の想起は、通知の郵送より簡易で、女性にとって便利である可能性があるため、研究で評価する必要があります。女性の好みや考え方をもっと良く知り、女性が検査を受ける可能性が高ま

れば、将来、より健康的な食事やより多くの運動などにより、2型糖尿病発症リスクの低減に役立つことが明らかになります。

エビデンスの質

レビュー対象となった唯一の研究は参加者が少なく、得られた結果が正確でないため、エビデンスの総合的質は低いと考えられました。

データの最新性 このエビデンスは、2013年6月の時点で最新です。

(監訳 曾根 正好)

翻訳公開日: 2015年 6月24日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、2013年6月からコクラン・ライブラリーのNew review, Updated reviewとも日単位で更新されています。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、タイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。